

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析結果と 今後の取り組みについて

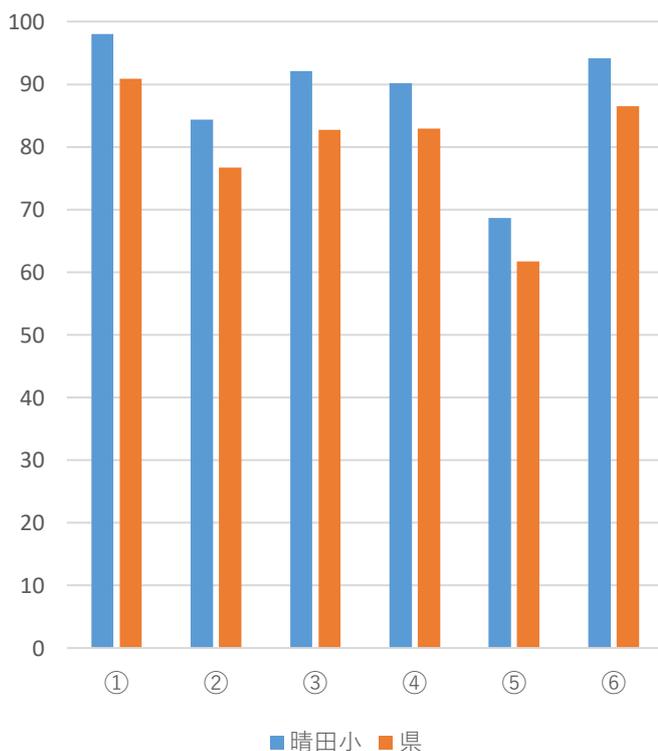
令和6年10月 小城市立晴田小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年 国語科 算数科）の結果をお知らせします。また、生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と、低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

## 【生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」】

### <数値が特に高かった項目>

①	先生はあなたのよいところを褒めてくれると思いますか。
②	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
③	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。
④	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
⑤	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。
⑥	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。

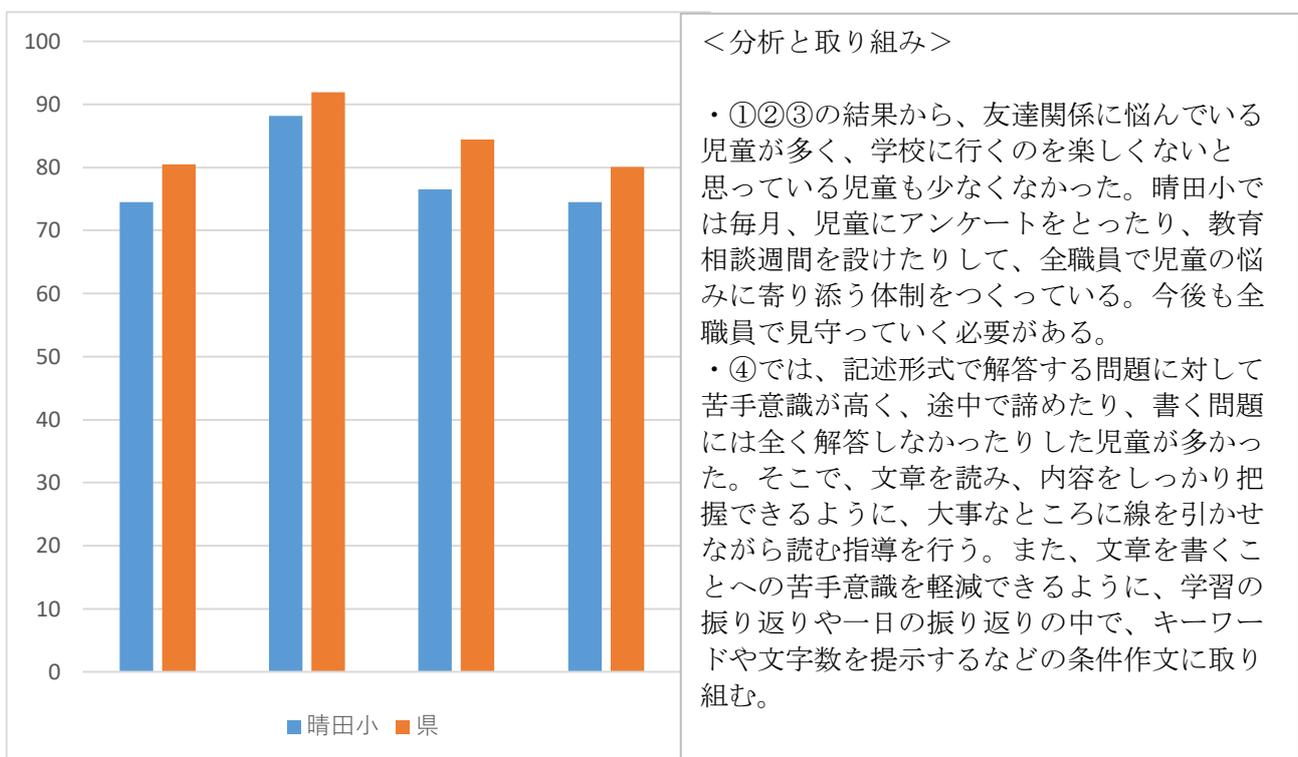


### <分析と取り組み>

- ・校内研で、「できる喜び・分かる楽しさを感じる子どもの育成」を目指し、様々な場面で交流活動を仕組み、学習を進めている。②③④⑤⑥の項目が、県の数値よりも大きく上回っているという結果は取組の成果でもありと考えている。自分の考えを大勢の前で言うことが苦手な児童は、2人組や小グループでの交流活動を行うことで自分の考えを伝えることができるようになってきた。
- ・①の項目が大きく上回っているのは、教育相談週間やアンケートだけでなく全職員で子どもの悩みを早期に発見し、話を聞くよう心掛けてきたことの表れでもありと考えている。

< 数値が特に低かった項目 >

①	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
②	友だち関係に満足していますか。
③	学校に行くのは楽しいですか。
④	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらについて最後まで解答を書こうと努力した。



< 分析と取り組み >

- ・①②③の結果から、友達関係に悩んでいる児童が多く、学校に行くのを楽しくないと思っている児童も少なくなかった。晴田小では毎月、児童にアンケートをとったり、教育相談週間を設けたりして、全職員で児童の悩みに寄り添う体制をつくっている。今後も全職員で見守っていく必要がある。
- ・④では、記述形式で解答する問題に対して苦手意識が高く、途中で諦めたり、書く問題には全く解答しなかったりした児童が多かった。そこで、文章を読み、内容をしっかり把握できるように、大事なところに線を引かせながら読む指導を行う。また、文章を書くことへの苦手意識を軽減できるように、学習の振り返りや一日の振り返りの中で、キーワードや文字数を提示するなどの条件作文に取り組む。

◆令和6年度全国学力・学習状況調査 《6年生 国語科》

全体の概要

- ・教科全体の平均正答率が県平均を大きく下回っていた。
- ・観点別にみると、知識及び技能に関しては、「我が国の言語文化に関する事項」、思考力・判断力・表現力等に関しては、「読むこと」が大きく下回っていた。
- ・問題形式で見ると、「記述式」は、県平均よりも大きく下回っていた。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的な取り組み
知識・技能	<p>・文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかを見る問題では、県の平均より大きく下回っていた。主語、述語、修飾語など文の構造を捉える力に課題が見られた。</p> <p>・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかをみる問題では、県の平均より大きく下回っていた。何となく読書をするのではなく、その本の魅力に気付く力に課題が見られた。</p>	<p>・日々の振り返りを書く時に、主語と述語を意識した文章を書かせたり、文を書いた後に必ず読み直しをしてねじれ文がないか確認をさせたりして、文の構造に意識をむけさせる。</p> <p>・学習の振り返りや一日の振り返りの中で、キーワードや文字数を提示するなどの条件作文に取り組むようにする。</p> <p>・読書活動を大切に、ただ読むだけではなく、児童同士でおすすめの本の紹介をし合う活動を仕組む。</p>
思考・判断・表現	<p>・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題では、県の平均より大きく下回っていた。自分の考えの根拠を明確にするために資料を活用することができる児童が少ないことが分かった。資料活用能力に課題が見られた。</p> <p>・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を効果を考えたりすることができるかどうかを見る問題では、県の平均より大きく下回っていた。物語文を読んで感想をもつことや、心に残ったことを文章に書くことに課題が見られた。</p>	<p>・国語科に関わらず、様々な教科で自分の考えの根拠を明確にし、より説得力をもたせるための手段として資料を活用しながら説明する授業を仕組む。</p> <p>・物語を読んで感想を書かせるときに、魅力的な言葉やできごとなどを取り上げさせたり、振り返りを書かせるときに条件を与えたりするなど書く活動、読む活動の工夫をする。</p>

◆令和6年度全国学力・学習状況調査 《6年生 算数科》

全体の概要

- ・教科全体の平均正答率が県平均とほぼ同じだった。
- ・観点別にみると、知識及び技能については県・全国の平均とほぼ同じである。思考力、判断力、表現力等については、県平均を大きく下回っていた。
- ・問題形式別に見ると、「選択式」「短答式」は県・全国の平均とほぼ同じだが、「記述式」は大きく下回っていた。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的な取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかを見る問題では、県・全国の平均を大きく上回っていた。文章問題に取り組むときに線分図を用いて数量関係を捉えさせていたことの成果だと考えられる。</li> <li>・わる数が小数のわり算のとき、わる数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる問題では、県平均を大きく下回っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算力はある程度ついており、基礎基本の定着ができていますので、問題文を読みながら、その場面を想像して問題を解き、算数で学習したことを自分の生活場面に生かすことができるような指導をしていく。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考え、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、県の平均を大きく下回っていた。</li> <li>・折れ線グラフから必要な情報を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかを見る問題では、県の平均を大きく下回っていた。</li> <li>・長い問題文を粘り強く読み必要な情報を選ぶことや、何とかして説明を書こうとする姿勢に課題がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表やグラフ、絵や図などの多くの情報から、問題解決をするために必要な情報を選ぶ活動や、その情報を使って答え（考え）を説明する活動をする。</li> <li>・「あいあいタイム」で友達の考えを聞くだけでなく、友達が言ったことを繰り返したり、自分の言葉に変えたりして誰かに伝える活動（インプット・アウトプット）を充実させていく。</li> </ul>